

BEST AVAILABLE COPY

PUBLICATION NUMBER : 61150249
PUBLICATION DATE : 08-07-86

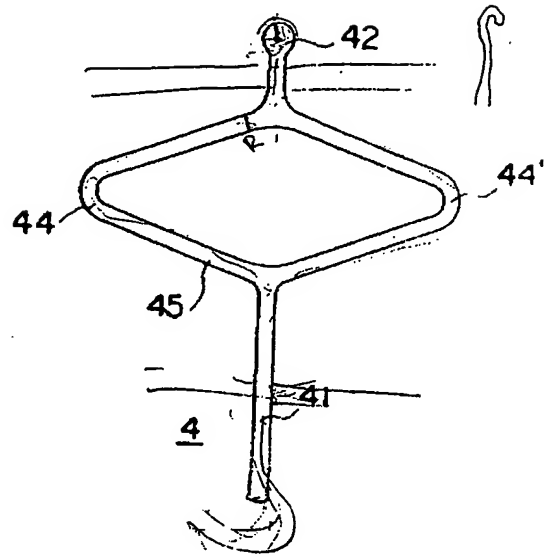
APPLICATION DATE : 24-12-84
APPLICATION NUMBER : 59272317

APPLICANT : TOSHIBA CORP;

INVENTOR : TAKIZAWA SEIJI;

INT.CL. : H01L 23/32

TITLE : SOCKET PIN FOR SEMICONDUCTOR
DEVICE



ABSTRACT : PURPOSE: To enable the prolongation of lifetime by securing good contacts by providing an annular elastic section between the base end and the contact point.

CONSTITUTION: The socket pin is annular in the elastic section 45 provided between the base end 41 and the contact point 42 and has two bends 44 and 44'. Because of dispersion of stress to two parts, the burden of one bend lightens. Therefore, the elastic lifetime of the bend prolongates, and good contacts can be obtained. For the purpose of evenly dispersing stress, it is preferable to form the annular elastic section 45 out of two triangular members which are located in the relation of mirror images. This construction can always secure good contacts and prolongate the lifetime.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

JP Schrift prüfen

→ weitere Figuren ?

REF ID: A61-150249 020

このICパッケージは脚立係によってソケット本体に固定される。このソケット本体は取付基板に実装されることになる。

第4図に使用のソケットピン4の形状を示す。このピンは使用部材に挿入される第部41と、ICパッケージの外周リード2に接続する接触部42と、これらの中間に設けられる寸の突起部43と、を有する。ICパッケージ1が押圧されて変位されると、突起部43が押圧部5の圧力を受けて変位取除し、これに列する部力によって第部42が外周リード2に接触することになる。このためピン4には弾力性が必要、取除きにくくたべリウム製等の材料が用いられ、通常は表面に金めっきが施される。

(升平扶危の四段)

従来のソケットピン4は、昇降部43の凹部44に密着力が発生するため、昇降部43に密着していると、凹部44の弾力性が弱まり、押込部42を昇降部43に密着させる力が弱くなってくる。また、第5図に示すように1Cパッケージ1を駆

せ、押入板で圧力をかけると、ソケットピン4は元の位置に戻るように弾力変形するため、外周リード2が凹む場合に凹型部42が外周リード2の先端からはずれてしまうおそれがある。

このように従来のソケットピンには、接触不良が生ずるおそれがあり、また寿命が短いという欠点があった。

(附四〇四卷)

そこで本発明は若に良好な移動を留めでき、
 命の或い平寄は輪廻間ソケットピンを能供するこ
 とを目的とする。

(聖明御覽)

本発明の物性は、平環状高圧用ソケットピンにおいて、与圧部と筒腔部との中間に筒腔形成部を設け、ピンにかかる圧力を分散し、特に良好な性能を確保し、寿命を伸ばした点にある。

(及びの五原則)

以下、本発明を提示する実施例について説明する。第1図に本発明に係るソケットピンの一実施例の形状を示す。該ピン41と該ピン42との

中国に設置された特設兵器4号は組立てしており、2つの組立部4号および4号を有する。図1は、図1の組立部2に図1が集中していたのに対し、本特設兵器は図1が2ヶ所に分散し、1つの組立部の図1が集中する。このため組立部の図1が力を受け、並列した組立部が影響を受けることになる。図1を平均に分散させることで、図1の特設兵器4号は、近くに設置された組立部にある2つの組立部が図1が影響を受けることになる。本特設兵器に使用されたソケットピンのもう1つの特徴は、図1の特設兵器2と図1の特設兵器2の両方方向に作用するおなじみの点である。これは2つの組立部4号および4号が均等に2つの特設兵器を受けるためである。従って図1に示した従来のソケットピンのように、図1が2ヶ所より2ヶ所から作用するようになることはない。

図2は別な實驗例に係るソケットピンの形状を示す図である。本發明に係るソケットピンの材料には炭素鋼およびベリリウム鋼に金めっきしたものを用いることができるが、より強力性の合金

縦向きを指し示す面色には、第2面に示すように
 両面の押部44の一部分に切欠部45を設ける
 ようにするのが好ましい。押え部46の凹力を受けて
 、まず両面44が押圧変形を凹力を受け、やがて
 この押圧変形によって切欠部45がはみちみち、図
 面44'も押圧変形を所行し、最終的には両面
 44と44'との凹力は均等になることとなる。
 図1図に示した両面側と同様の効果を生ずること
 になる。即ち、切欠部45が両側の押圧力を均等
 な状態を維持することになる。

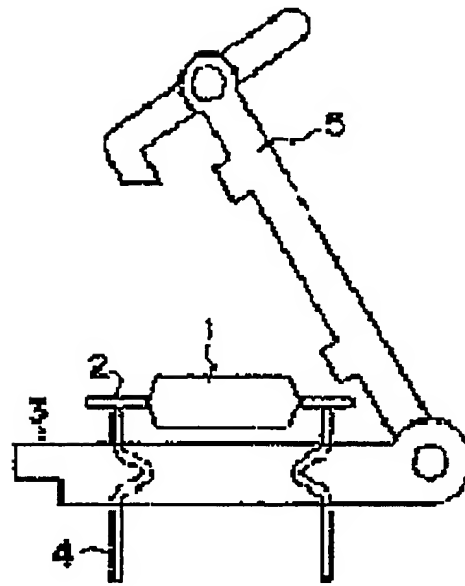
(足部全動器)

以上のとおり本月初によれば、平準債権控用ソケットピンにおいて、国政債額面を減らすようにしたため、日に急激な下落を察知し、かつ現金を伸ばすことを要する。

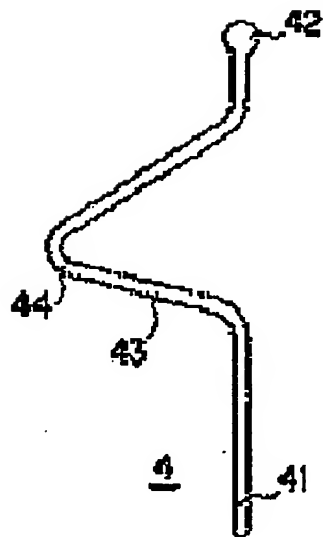
4. 阻害の性質を調べる

第1図は本発明に係るソケットピンの一実施例の説明図、第2図は本発明に係るソケットピンの別な一実施例の説明図、第3図は従来技術の構造例

第 3 圖



第 4 圖



第 5 圖

